

総合統計書に関する検討会（第4回）議事要旨

1. 日 時 平成26年11月28日（金）16：00～18：00
2. 場 所 総務省第2庁舎 7階中会議室
3. 出席者
構 成 員：大林千一座長，川上和久委員，廣松毅委員，渡辺美智子委員
オブザーバー：吉井敏一東京都総務局統計部調整課長
：小林（独）統計センター統計技術研究課統計情報・技術指導官
総 務 省：水上大臣官房参事官，奥田統計情報システム課長，近藤統計情報企画室長
4. 議 題
(1) 総合統計書に関する検討会報告
(2) その他
5. 配布資料
資料1 総合統計書に関する検討会報告書（案）
資料2 総合統計書の見直しスケジュール（案）

参考1 「日本統計年鑑」の電子媒体化について
参考2-1 「日本統計年鑑」の章の見直しについて
参考2-2 総合統計書の章（分野）対照表
参考2-3 「日本統計年鑑」と「社会・人口統計体系」の位置付け
参考3-1 「社会・人口統計体系」の冊子の構成変更
参考3-2 「日本統計年鑑」から移行するデータの受け皿について

別添 総合統計書に関する検討会における意見等
別紙 総合統計書に関する検討会（第3回）議事要旨
6. 議事要旨
○ 事務局より資料に基づいて検討会結果について報告，今後の課題の説明。それにより，意見交換が行われた。

【主な意見】

○総合統計書について

- ・若干文言の修正はあるが基本的内容は了解。
- ・相互間の関係が整備されたことが良かったのではないか。

○データベース化について

- ・「日本統計年鑑」と「社会・人口統計体系」に、資料源が異なる同じ項目があるとユーザーが混乱をするので、どちらにも説明を付与する必要がある。
- ・市区町村データについては、市区町村の廃置分合や、時系列の接続の検証が必要であり、今後データベースを整備する上でポイントになるのではないか。

○電子書籍について

- ・電子的な記録媒体の容量には制限があるので、選択肢の多様化という意味でも紙媒体を完全に廃止するのは難しいが、柔軟な対応をお願いしたい。
- ・「日本統計年鑑」の第1回からの、電子書籍化の検討に合わせ、前身である「日本帝国統計年鑑」についても電子書籍化の検討を行ってほしい。

○「日本統計年鑑」の章立てについて

- ・章の見直し、総合統計書の整理について了解。

ただし、見直しが行われる際には、「部」（大括り）単位で整備する名称について更に検討をしてほしい。

「Ⅲ 企業」については、「企業」だけでは範囲が狭いと感じる。「企業・事業所」「企業・産業」と言葉を補った方が良いのではないか。また、「Ⅳ 世帯」についても「企業」と対比させる「家計」にした方が良いと思われる。

「Ⅰ 自然・人口」の中に「2章 人口・世帯」と有るため、「Ⅳ 世帯」の名称に、違和感がある。

○「PSI（ポケット統計情報）」の「アプリDe統計」との連携について

- ・「PSI（ポケット統計情報）」は統計調査員が調査時に活用しているものであり、今後「アプリDe統計」との連携に際して、統計調査員へのヒアリングをするのであれば、東京都として協力する。
- ・調査員が調査客体に、統計が実際にどのように活用されているのか尋ねられることがあるので、「PSI（ポケット統計情報）」に国や自治体の施策の基礎となる情報も掲載をお願いしたい。

<文責：事務局（今後、修正することがあり得ます。）>

以上